

湖沼における水辺環境モデル事業について

1 目的

「人と自然が共生できる豊かな水環境」の実現をめざし、かつて河北潟に大量に自生していた浮葉植物（ヒシ・アサザ）の植生による水質浄化の効果を検証するとともに、原風景の復元を図ることを目的に、平成20年度より事業に着手した。

2 平成20年度の実験結果

(1) 模擬水路での浮葉植物の水質浄化実験（保健環境センター）

ヒシによる窒素、リンの吸収により、植物プランクトンの増殖が抑えられ、CODが30%程度削減された。

模擬水路



(2) 堆肥化実験（農業総合研究センター）

乾燥ヒシと牛ふん堆肥を混合した堆肥化実験の結果、1ヶ月で良好な性状となった。また、堆肥成分は一般的な牛ふん堆肥や食品残さ堆肥よりも窒素成分を多く含む良好なものであった。

3 今後の予定

21年度には、春先からの移植を行い、成長期においても生育するかどうかを実証することとしており、あわせて、遮光効果や栄養塩類の低減による植物プランクトンの増殖抑制効果などを実証することとしている。